

8 仏教思想概論 —インド仏教思想の展開—

【全4回】／開催方法：現地

しもだ まさひろ
下田正弘

東京大学教授
日本印度学仏教学会理事長



受講料 会員料金：¥9,000 早割価格：¥8,000(納入期限：6月6日)

【日程・時間】【全4回】6月12日(月) 10:30~12:00・13:20~14:50
6月13日(火) 13:20~14:50・15:00~16:30

■受講に必要なもの

[テキスト] レジュメ配布

本講義は、仏教思想のさまざまな特質について、その概要を理解することを目的とする。講義は、原始（初期）仏教の思想の特徴の考察から出発し、仏教の基本教義を完成した部派仏教の思想、それに根底から問題提起をした大乘仏教の空（中観）の思想、それら前史を踏まえて完成された唯識思想、さらに仏教思想の究極的形態である如来蔵・仏性思想までの展開を、順に辿ってゆく。

これによって、諸行無常、諸法無我、一切行苦、という思想の提示からはじまり、瞑想修行によって煩悩の制御をめざす仏教の教理へと展開し、ついであらゆる存在についてその本性が空であり、縁起であると説く大乘仏教の出現、さらにすべてを意識の所産であるとみる三界唯心という教説の完成、最後に、すべての衆生に仏の本性が存在することを宣言する思想が現れてきたことの意味が、一連の歴史として理解されるだろう。

講義は、インド仏教の原典を解読し、その思想にわずかでも直接触れることを目的とする。初期仏教経典、部派仏教の論書、さらには大乘経典（阿弥陀経、法華経等）あるいは論書（中観、唯識、仏性・如来蔵思想関係等）のなかから、その思想の核心が窺える部分を、適宜抜粋して、和訳をしたテキストによって読んでゆく。

もちろん、受講生には、サンスクリット語やパーリ語の知識を要求することはなく、初心者でも講義内容についてゆけるように配慮するので、安心して受講されたい。この講義を通して、インド・ヨーロッパの精神世界を構成した、サンスクリットという言語による思想構築の営為の一端にふれることができれば、仏教思想がいかに精密な論理で組み立てられているか、同時に、それが論理の限界点に達し、いかにしてあらたな世界を開いてゆくか、そのみごとな思想の運動を経験することができるだろう。

【参考書】

- ①『パリニッバーナ 終わりからの始まり』 著者：下田正弘 出版社：NHK出版 出版年：2007
- ②『仏教とエクリチュール』 著者：下田正弘 出版社：東京大学出版会 出版年：2020